

大腸カメラを受けましょう！！！！

H23 厚生労働省発表による死因順位・・・

1位 悪性新生物（癌） 2位 心疾患 3位 脳血管障害

更に癌部位別死亡順位では・・・

男性 1位 肺癌 2位 胃癌 3位 大腸癌 4位 肝臓癌
女性 1位 大腸癌 2位 肺癌 3位 胃癌 4位 乳癌

40代から年齢が上昇するにしたがって癌の占める割合が多くなり、

男性は 60代、女性は 50代がピークとなっております。

(H23 6月1日、厚生労働省 人口動態・保健統計課 月報調整係より参照)

便潜血検査とは どういう検査なの??

簡単に説明すると、専用の容器に便を入れ検診センターへ提出し、便中に血液が混ざっていないかどうか？調べる検査です。料金的にも安く手間も掛からず簡単に出来るという事で多くの方達に広まっていますが、幾つかの問題点があります。

- ① 出血している病気しか分からず、ある程度大きくなった病変でなければ陽性にならない。
偽陰性率（癌を見逃す確率）進行癌10%、早期癌50%
- ② 早期癌、平坦な癌は見逃されやすい。（陽性時の癌的中率3%）
- ③ 痔で陽性となる事も多い。
- ④ ポリープの発見にはほとんど役に立たない。

見逃しを避ける為2日にわたって2回便を採取する方法が行われていますが、それでも100%診断する事は困難です。また、便検査を2回行った内、1回でも陽性と出た場合には、精密検査を（大腸カメラ）を受ける事になっております。

大腸癌と大腸ポリープの関係について

大腸癌による死亡率は、昭和30年から上昇をしており、2015年には肺癌や胃癌を抜いてもっとも発生率が高い癌になると推測されています。大腸癌は、ほとんどが大腸ポリープが大きくなって癌化するといわれております。大腸カメラでポリープを切除する事で大腸癌の発生を抑える事が可能です。

便潜血検査は簡単な検査で集団検診などで広く行われる検査です。しかし、大腸ポリープがあっても、ほとんど陽性にならない検査法であり、手術が必要な進行癌でも約10%の方は見逃されてしまいます。

大腸の病気が心配な方、特に50歳を迎えた方は、

毎年 大腸カメラを受ける事をお勧めします！！！！